

# SPA

lignin

詩のようなもの

青臭い青春の遠吠えも

分かった如くのすまし顔も

並べた難解漢字に虚勢ても

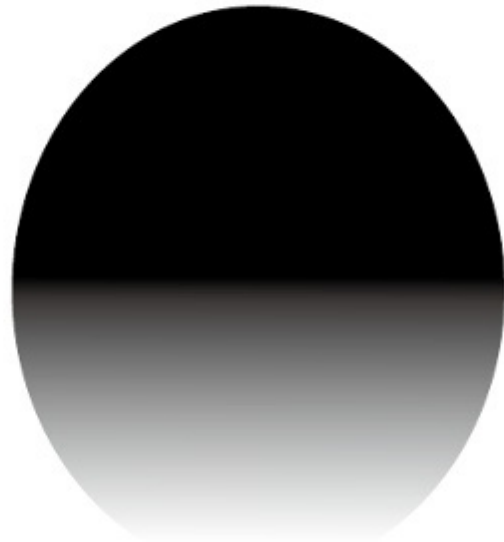
単に小話だったとしても

己れの愚に気付かず得意気であった

使い古された人真似であつても

共通言語で遊ぶ限界と発展

そして寛容





かぷり

ヘルメットを脱いだ  
髪の間隙から覗く  
剥き出しの君の耳に  
かぷり

ひんやり やわい  
振り向かない  
君の後頭部は  
OKと言うこと？

## 白濁

眠れない夜には 牛乳を飲む  
後悔 焦り 自己嫌悪  
過去に 呪い 憎しみ 恨み  
押し潰される  
先の見えない未来・・・絶望？  
握り締めた  
グラスの中の白濁

幾千もの涙を注いでも 決して 澄み切らない  
多分 すぎるように 白濁を飲み干したのだ

わずかに 白の痕跡を残す  
グラスは 空